

140周年特集号の趣旨

—産総研・地質調査総合センターとしての20年の軌跡—

地質調査総合センター長 中尾 信典¹⁾

地質調査総合センター(GSJ: Geological Survey of Japan)の前身である旧地質調査所が明治15(1882)年に創立されてから、今年で140周年という節目の年を迎えた。設立当時のGSJの主な役割は、殖産興業や富国に資する石炭などのエネルギー・鉱物資源の安定確保にあった。140年の歴史の中で、社会の要請に応じて研究課題の重点のおかれ方が多少は変化してきたが、GSJは一貫して国土の地質情報の整備と、資源・エネルギーの安定確保、地圏環境の保全と利活用、地質災害の低減・防災に資する調査研究をミッションとして「地質の調査」に取り組んできた。

平成13(2001)年の独立行政法人化によりGSJは産業技術総合研究所(産総研)の中の研究組織として、地質調査総合センターという名称で再始動した。英名はGeological Survey of Japanで変わっていない。産総研発足当時から平成18(2006)年まではバーチャルな組織であったが、産総研の中長期目標期間ごとの組織見直しの中で、GSJは産総研の中の7つの研究領域の一つとして位置づけられ現在に至っている。GSJ内の研究ユニットについても、平成26(2014)年の見直し以降、現在の体制となっている。

研究面で見ると、GSJは産総研発足以降、産総研憲章『社会の中で、社会のために』に則り、わが国経済の発展、国民生活の向上に寄与するため、国土の地質情報整備と利活用促進を進めるとともに、産業技術の高度化や新産業の創出にも貢献すべく、研究に取り組んできた。令和2(2020)年度から始まった産総研第5期中長期目標期間(5ヶ年)では、エネルギー環境問題、地球温暖化、少子高齢化、自然災害、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、多様な社会課題の解決と、日本の産業競争力強化(イノベーション創出)に貢献することが産総研に期待されている。GSJも産総研の一員として、令和3(2021)年に制定された産総研ビジョン『ともに挑む。つぎを創る。』をモットーに、研究を遂行している。国際的には、世界各国の地質調査研究機関とも様々な形で連携・協力してグローバルな研究課題に取り組んできた。特に、東・東南アジア地域の経済発展と生活レベル向上を目的として地球科学分野のプロジェクト等の推進・調整を行う政府間機関CCOP(Coordinating Committee

for Geoscience Programmes in East and Southeast Asia)を通して、各種調査研究プロジェクトの主導や協力などの貢献を果たしてきた。

創立100周年の昭和57(1982)年には「地質調査所百年史」が、120周年の平成14(2002)年には「地質調査所から地質調査総合センターへ」が出版され、貴重な資料となっている。140周年に当たる本年は、産総研発足からこの20余年間の、組織としてのGSJの変遷や研究課題等を記録し総括することを第一の目的に、本特集号が組まれている。

本特集号は18の報文、付録とコラムから構成されている。始めにGSJ140年の略史について矢野雄策特別顧問が、次に産総研発足前後の様子について小玉喜三郎特別顧問がまとめている。120周年以降、すなわち産総研になってからの20余年間を、社会貢献としてインパクトが大きかった研究課題・プロジェクトを中心に佃栄吉名誉リサーチャーが振り返っている。続いてGSJの各研究ユニット、管理運営ユニットならびに地域センターにおける活動について、当時あるいは現在の代表者が振り返っている。最後に産総研第5期以降の研究戦略について光畑裕司副総合センター長が展望している。

21世紀になってからの20年間で、私たちを取り巻く環境は情報技術などの技術面や生活様式も含め大きく変化をしてきた。私たちも目標や目的は変わらなくても調査研究における手段や手法を工夫し進化させていくことが今後益々重要となってくるであろう。「地質の調査」という基幹業務をベースとした不易流行を旨に、時代に応じた社会課題を見極め、それらの解決に向けた弛みない努力が必要である。また、地質情報等の利活用促進や社会実装に向けた取組も私たちの大きな責務のひとつである。本特集号が、今後、「地質の調査」に関する国内唯一のナショナルセンターであるGSJの存在意義を確認したり、将来の方向性を議論したりする際に、「地質調査所百年史」(地質調査所百年史編集委員会、1982)と「地質調査所から地質調査総合センターへ」(「地質調査所から地質調査総合センターへ」編集委員会、2002)とともに、貴重な資料となることを期待する次第である。

1) 産総研 執行役員

キーワード：140周年、地質調査総合センター、特集号趣旨

最後に、140周年記念事業として本特集号の企画立案と編集を推進していただいた、140周年記念号編集委員会の皆様、GSJ地質ニュース編集委員会の皆様、そしてお忙しい中原稿を執筆いただいた皆様に深く感謝いたします。

文 献

地質調査所百年史編集委員会（1982）地質調査所百年史.
地質調査所，162p.

「地質調査所から地質調査総合センターへ」編集委員会
（2002）地質調査所から地質調査総合センターへ. 地
質調査総合センター，89p.

NAKAO Shinsuke (2022) Purpose of 140 th anniversary
special issue —20-year history as Geological Survey of Japan,
AIST—.

（受付：2022年6月13日）